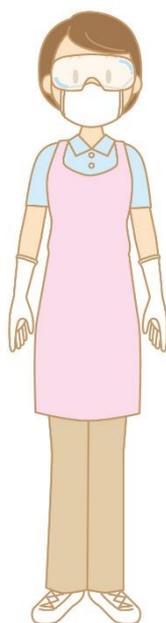


★喀痰吸引のポイント★

- ・ 喀痰吸引は、衛生的に実施しないと、病原体が入居者間に伝播する可能性があります。
- ・ とくに口腔内に薬剤耐性菌を伝播してしまうと、薬剤耐性菌が肺炎の原因菌となる可能性があります。薬剤耐性菌による感染症は治療が難しいため、喀痰吸引に際し適切な感染対策を実施し、これを防ぐ必要があります。
- ・ 喀痰吸引によって飛沫が発生することがあり、スタッフも危険にさらされます。適切な個人防護具の着用が必要です。

■ この作業に必要な個人防護具 ■



サージカルマスク
使い捨て手袋
使い捨てビニルエプロン
フェイスシールドまたはゴーグル

喀痰吸引は、入居者間に病原体が伝播しやすい行為です。衛生的に実施し、感染対策を心がけましょう。



■ 施設全体の管理 ■

- ◆ 喀痰吸引に関する研修会等を行い、スタッフの意識向上・スキル向上を図りましょう。 **守る!**
- ◆ 口腔ケア時の手指衛生を実施する利便性から、アルコール製剤を個人携帯できるポシェットの採用が有用です。 **目標**
- ◆ スタッフが安全に喀痰吸引を実施できるように、適切な个人防护具（使い捨て手袋・使い捨てビニルエプロン・フェイスシールドまたはゴーグル・サージカルマスク）を準備し、使用させましょう。 **守る!**
- ◆ 吸引カテーテルを再利用している施設が多いと思いますが、カテーテルは使用ごとに廃棄した方が、その後の消毒処理や清潔な管理を必要としないため、便利です。人的な手間も考慮し、よく検討を行いましょう。 **守る!**
- ◆ 喀痰吸引に使用する吸引器・吸引カテーテルの清潔な管理が重要です。

★ ポータブル吸引器の管理 ★

- ・ 喀痰から薬剤耐性菌が検出されている入居者、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症に罹患している入居者の場合、その期間は専用の使用としましょう。 **目標**

※共用する場合には、使用後吸引器の表面を洗剤＋消毒薬含有のワイプ（環境クロス）で拭くか、消毒用アルコールで拭き消毒を行いましょう。また、吸引器と吸引カテーテルの間をつなぐチューブの交換を行いましょう。 **次善策**

- ・ 吸引器は、使用ごとに手で触れる部位・チューブ収納部分などを洗剤＋消毒薬含有のワイプ（環境クロス）で拭くか、消毒用アルコールで拭き消毒を行いましょう。 **守る!**
- ・ 吸引器と吸引カテーテルの間をつなぐチューブは、入居者ごとに交換するか、洗剤を用いてよく注水洗浄した後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウム溶液でチューブ内を満たし、30分程度消毒します。その後十分にすすぎを行い、よく乾燥させてから使用します。 **目標**
- ・ 吸引器の集痰ビンの中に消毒薬を入れておく必要はありませんが、1日1回交換しましょう。 **守る!**

※集痰ビンと同じ入居者に継続して使用する場合は、洗剤で洗浄後乾燥させます。

※再利用する集痰ビンのタイプの場合、80℃10分の熱水洗浄を実施します。

※中性洗剤で洗浄した後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムに30分程度浸漬させての消毒でも問題ありません。

★ 吸引カテーテルの管理 ★

- ・吸引カテーテルは絶対に共用してはいけません。 **ダメ!**
- ・吸引カテーテルは、基本的に使用ごとに廃棄します。再利用する場合も1日1回交換しましょう。

目標

- ・吸引カテーテルは、使用後にアルコール綿で外表面に付着した分泌物を拭き取り、清潔なカップ（紙カップで可）に準備した水道水を注水して、カテーテル内腔を十分に洗浄します。カップの水は全量吸引した後、カテーテル内腔に水が残らないように空気を吸います。その後、消毒薬（消毒用アルコール、0.1%塩化ベンザルコニウム、0.1%塩化ベンゼトニウムなど）を吸引し、チューブ内腔を消毒・乾燥させます。 **守る!**

- ・洗浄・消毒したカテーテルは、乾燥した清潔な蓋つきの容器に入れて保管しましょう。 **目標**

※ペットボトル等に消毒液を入れ、そこに使用後の吸引カテーテルを無造作に入れて保管している施設はないでしょうか。洗浄が確実に行われない場合、十分な消毒効果が得られません。消毒薬の種類や濃度によっては、液内で病原体が増殖することもあります。また、カテーテル内腔に消毒薬が十分接触せず、消毒ができていない可能性が高いです。また、消毒薬の入った容器から直接使用すると粘膜への刺激性の問題もあります。これらの理由から「容器に消毒薬を入れて、その中にただ保管しておくだけ」の保管方法は推奨しません。

※消毒液に入れて保管する場合：使用後にアルコール綿で外表面に付着した分泌物を拭き取り、清潔なカップ（紙カップで可）に準備した水道水を注水して、カテーテル内腔を十分に洗浄しましょう。カップの水を全量吸引した後、カテーテル内腔に水が残らないように空気を吸う。その後、消毒薬（消毒用アルコール、0.1%塩化ベンザルコニウム、0.1%塩化ベンゼトニウムなど）を吸引しチューブ内腔を消毒した後、蓋つき容器内の消毒薬へ浸漬させます。容器も毎日洗浄し、清潔に運用する必要があります。 **次善策**

- ・吸引カテーテルも口腔ケア用品と同様に、入居者ごとに管理を行い、洗浄・消毒も入居者ごとに実施しましょう。他人のもの同士を、接触させない工夫が必要です。 **守る!**

■ 喀痰吸引時の个人防护具 ■

- ◆使い捨て手袋・サージカルマスク・使い捨てビニルエプロン・フェイスシールド（またはゴーグル）が必要です。 **守る!**
- ◆入居者ごとに手袋を外し、手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施します。 **目標**

■ 喀痰吸引時の手順と注意点 ■

<<準備>>

1. 手指衛生を行い、清潔なカップ（新しい紙コップで可）に水を入れます。
2. カテーテルを廃棄する場合は、ビニル袋を準備します。
3. 吸引のスイッチを入れます。
4. 声かけの後、吸引カテーテルが周囲のものに触れないように吸引器のチューブに接続します。
5. 開始前に、もう一度手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施します。
6. 上記の個人防護具を着用します。

<<実施>>

7. 吸引圧を確認後、吸引カテーテルの上部を持ち、カップの水を吸引します。
※再利用のカテーテルの場合、アルコール綿でカテーテル表面を根元から先端に向かって拭いてから使用します。この場合、刺激があるので、アルコールが乾燥してから使用しましょう。
8. 吸引カテーテルを挿入し、痰の貯留しているところでカテーテルを回しながらゆっくり分泌物を吸引します。
9. 吸引1回ごとに、アルコール綿でカテーテル表面を根元から先端に向かって拭いてから水を吸い洗淨します。
※刺激があるので、アルコールが乾燥してから使用しましょう。
10. 吸引ごとに深呼吸を促し、必要に応じてタッピング法やバイブレーションを行い、咳嗽を促します。

<<片付け・次の作業への準備>>

11. 終了後は、カテーテルを先端から準備したビニル袋にそっと入れて密閉します。
12. カテーテルを再利用する場合には、カップに残った水を全量吸引し内腔を十分に洗淨します。
アルコール綿でカテーテル表面に付着した分泌物を拭き取り、カテーテル内腔に水が残らないように空気を吸います。（その後の消毒処理・保管等については上記参照）
13. 手袋>手指衛生>フェイスシールド・ゴーグル・ビニルエプロン>手指衛生>マスクの順に脱ぎ、最後にもう一度手指消毒用アルコールで手指衛生を行いましょう。
14. 吸引のスイッチを切ります。

■ 新型コロナウイルス感染症に関する注意点 ■

- ◆ 喀痰吸引は、スタッフが最も新型コロナウイルス感染症のリスクにさらされやすい行為の一つです。
- ◆ しかし、新型コロナウイルス感染症の入居者でも喀痰吸引は必要であるため、フェイスシールドを含めた个人防护具を着用して安全に行いましょう。 **守る!**
- ◆ 換気を十分に行いましょう。 **守る!**
- ◆ 入居者の飛沫を浴びにくいような位置を工夫して実施しましょう。 **目標**
- ◆ 実施後、个人防护具を外した後の手指衛生の範囲は肘の上まで実施しましょう。 **目標**
- ◆ 新型コロナウイルス感染症と確定している入居者、罹患している可能性が極めて高い入居者では、利用が可能であれば実施スタッフはN95マスクを着用しましょう。 **目標**

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）